

未来を拓く音楽科の授業改善

— 音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成 —

井手口 哲子

1 音楽科において育成すべき資質・能力

平成29年に新学習指導要領が改訂された。「中教審答申」において、「現行学習指導要領の成果と課題」については、次のように指摘されている。

- 音楽科、芸術科（音楽）においては、音楽のよさや美しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに关心を持って、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むこと等に重点を置いて、その充実を図ってきたところである。
- 一方で、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値観等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさをいっそう味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての关心や理解を深めていくことについては、更なる充実が求められるところである。

この「中教審答申」では、新しいことに取り組むよう述べられているわけではない。これまでの成果を踏まえてさらに充実を図ることが求められているのである。それでは、実際生徒は音楽を学ぶ意義について、どのように思っているのだろうか。平成20年に国立教育政策研究所が実施した「特定の課題に対する調査（音楽）」によると、「音楽の学習は、生活を明るく豊かにするのに役立つと思いますか。」の質問には「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が86.8%、「音楽の学習は、心を豊かにするのに役立つと思いますか。」の質問には88.7%で、心を豊かにするために役立っていると感じている生徒の比率は高いことがわかる。しかしそれに対して、「音楽の学習は、普段の生活に役立つと思いますか。」という質問には54.6%、「音楽の学習は、将来の生活や社会に出て役立つと思いますか。」の質問には49.4%であり、音楽の生活への役立ち感を感じている生徒は半数前後にとどまっている。

今回の学習指導要領の改訂においては、「これまでの成果を踏まえ、これらの課題に適切に対応できるよう改善を図っていくことが必要である。」とされている。これまで行ってきた学習内容等について、その学習がさらに充実したものとなるように改訂が行われた。

音楽科において育成すべき資質・能力は、以下の通りである。

- 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成する。
- ① 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
 - ② 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようとする。
 - ③ 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

人々の生活の中には様々な音楽があり、私たちの生活に影響を与えていている。生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することは、その後の人生で音や音楽と主体的に関わり、心豊かな生活を営むことにつながる。また、ここには現行指導要領で目標としている「音楽文化についての理解を深める」ことも含まれる。

音楽的な見方・考え方の「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉える」ことで、音や音楽について客観的にわかる（知覚）、そこから感じ取ること（感受）をともに捉えることができるようになる。今回の改訂は、音楽的な見方・考え方を働かせることにより、音楽科における深い学びの視点から授業改善の一層の

この課題は学習課題のレベルがLv. 3であるため、楽と背景色をそれぞれ3つから選択させた。音楽科の授業では、常に音楽を形づくっている要素を意識させて鑑賞している。たとえば楽しい印象を持ったのは、長調だから、リズムが付点のリズムではねているようだから、などだ。生徒は3年間を通して、表現と鑑賞の両領域で音楽を形づくっている要素を意識する。しかしそれは、それぞれの題材の中だけで終わってしまい、他の曲や実生活とつながってはいなかつた。そこで、未来思考科で実際のCMを使用し、映像に違う音楽を合わせて聴かせた。その経験から、人に与える印象が変わることを体感し、音楽科の授業でも、「作曲者はなぜこの部分で短調から長調に変えたのだろう。」というように、生徒自ら考えるようになった。

○ 曲を聴き比べて特徴をまとめよう	P (Plus) いいところ	M (Minus) だめなところ	I (Interesting) おもしろいところ 興味深いところ
1曲目 支那文部省歌	・高くて良い印象あり ・音程は比較的安定して ・詠唱感があり ・歌詞が分かりやすい	・少しがたさと重音がある ・少しあたかも複数の 伴奏が入る ・和音が少ない	・高くて良い印象あり ・歌詞が分かりやすい
2曲目 しあわせ 選べるように	・やさしく印象的 ・音程は比較的安定して ・歌詞が読みやす ・歌詞が覚えやすい	・少しがたさと重音がある ・少しあたかも複数の 伴奏が入る ・和音が少ない	・やさしく印象的で 歌詞が読みやす ・歌詞が覚えやすい
3曲目 リボーン	・やさしく ・歌詞理解が 比較的 ・歌詞が読みやす ・歌詞が覚えやすい	・盛り出しが多い ・強調せずに歌う	・歌詞理解が難しい ↓ 比較 ・時代背景を想起する ・歌詞が覚えやすい
○ あなたの考えを書きなさい。			
選択曲 (第9番) (しあわせ選べるように) (リボーン)			
僕は「前のBGM「あわせ選べるように」が一番好き」と思って、この二曲を比較する。左側に「楽曲の大体」を記すのが目的の横線、右側に「楽曲の特徴」を記すのが「左側の楽曲」と思って、僕は強調すべし。歌詞は複数あるので、左側の歌詞は「左側の歌詞」と、右側の歌詞は「右側の歌詞」と記す。イタグの歌い方くもかがりは「右側の文部省歌」は「少しがたさと重音」で、左側の「しあわせ選べるように」は「少しがたさと重音」で、「リボーン」は「少しがたさと重音」で、「左側の歌詞」と「右側の歌詞」で「リボーン」がより歌詞が読みやすくなる。歌詞が覚えやすいのは「左側の歌詞」と「右側の歌詞」で「リボーン」が最も覚えやすい。歌詞が読みやすいのは「左側の歌詞」と「右側の歌詞」で「リボーン」が最も読みやすい。歌詞が覚えやすいのは「左側の歌詞」と「右側の歌詞」で「リボーン」が最も覚えやすい。			
比較			

【資料2】CMプランナー第1時ワークシート

3 未来思考科に取り組んだからこそ見えてきた音楽科の授業改善

(1) 研究構想図

未来思考科の実践を重ねることで、音楽科の授業では学習課題のレベルを考えて授業に取り組むようになった。これまでの本校の研究を踏まえて、音楽科で授業改善を行ったことは次の通りである。

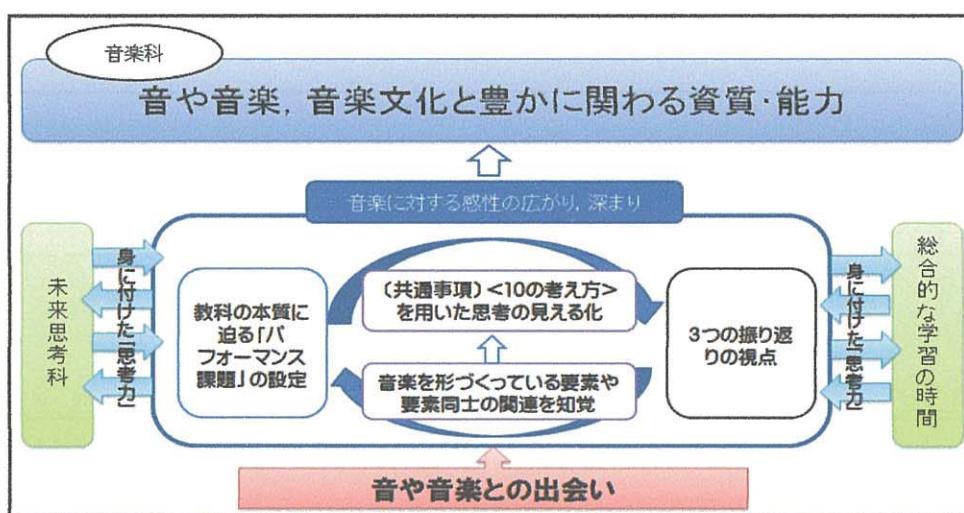
① 教科の本質に迫るパフォーマンス課題の設定

生徒が主体的に学習に取り組むためには、音や音楽との出会い方の工夫、音楽の役立ち感や実生活との関連を感じられるもの、リアルな課題が大切である。そのようなことを意識したパフォーマンス課題を設定する。パフォーマンス課題は、音楽科の学習が他教科や総合的な学習、特別活動や現実社会とどのようにつながっているのか意識するため、学習課題のレベルを考えて設定する。

② 振り返りの3つの視点

見通しをもち、粘り強く学習に取り組み、それを振り返りの3つの視点で振り返ることで、次の学習や、未来思考科、総合的な学習の時間、実生活につなげる。

次の図は、本校音楽科の研究構想図である。



私たちの生活の中には音や音楽があふれている。だからこそ、授業ではいかに音楽との出会いを魅力的なものにするかが大切である。音や音楽との出会いの場面では、パフォーマンス課題を提示する。音楽を鑑賞したり表現したりする際、生徒は音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それを<10の考え方>や「音楽を形づくっている要素」を共通の言語として、協働的に学習する。3つの振り返りの視点で振り返ることで、学んでいること、学んだことの意味や価値などを自覚し、その後の学習や、他の題材、未来思考科や総合的な学習の時間などにつなげる。身につけた知識・技能を関連づけたり組み合わせたりしながら習得していく、さらに未来思考科などで身に付けた「思考力」を音楽科に生かしたりすることで、音楽に対する感性が豊かになっていく。

音楽を聴いて、心が安らかになったり、助けられたりした経験は誰しも少なからずあるだろう。それは、音楽に対する感性が働いているからだ。音楽科の学習は、生徒が音や音楽の存在に気付き、それらを主体的に捉えることにより成立する。生徒が音楽を形づくっている要素を意識しながら音楽を捉えていく時、生徒の音楽に対する感性が働く。こうした学習を積み重ねることで、自らの音楽に対する感性が豊かになっていく。そのことで生徒が進んで音楽に親しみ、生涯にわたって音や音楽への興味・関心を持ち続けることにつながると考える。

(2) 実践例

第2学年では、鑑賞領域で総合芸術として、外国の芸術である「オペラ」と日本の芸術である「歌舞伎」を学習する。総合芸術であるこの2つを1つの題材構成として、オペラ「アイーダ」と伝統芸能「歌舞伎」を鑑賞した。これらの音楽を含め、我が国及び諸外国の様々な音楽は、過去から現在に至るまでの人々の暮らし、地域の風土、文化や歴史の影響を受け、社会の変化や文化の発展とともに生まれ、育ってきた。生徒がより身近に興味を持ちながら音楽に触れることが大切である。この2つを1つの題材として取り扱うことで、それぞれの特徴を比較したり関連させたりして鑑賞し、共通点や相違点、その音楽に見られる固有性を理解し、音楽の多様性を理解するのに適していた。

次に歌舞伎の実践について紹介する。

レベル	課題内容	カリキュラム
Lv. 5	2020年に東京オリンピックが開催されます。日本はこれを契機に「観光立国」戦略を確立し、経済発展の重要な柱に据え、2020年の外国人観光客受入数をのべ4000万人とする目標を打ち出しました。日本が「観光立国」として経済発展するためには、これからどのようなことが必要でしょうか。	総合的な学習の時間
Lv. 4	あなたは観光ガイドとして外国人に日本を案内することになりました。日本の魅力を伝え、また日本に来たいと思わせるような計画を立てましょう。	未来思考科
Lv. 3	初めて日本の古典芸能を見る友達にとって、どの狂言（演目）を紹介するのが良いでしょう。あなたならどの歌舞伎小屋のどの狂言（演目）と一緒に観に行きますか？	
Lv. 2	日本の伝統芸能について、その魅力を考え、他の国の総合芸術との関連性や日本の伝統芸能の固有性を考えなさい。	音楽
Lv. 1	歌舞伎に使われる楽器について説明しなさい。	

【資料3】第2学年 日本の伝統芸能「歌舞伎」の学習課題のレベル

【資料3】は「歌舞伎」に関する学習課題のレベルである。「歌舞伎」の授業においては、Lv. 3の課題レベルと考え、授業づくりを行った。この授業では外国の友人からの手紙から歌舞伎の紹介を考えていくようにしたため、英語科や社会科で学習した知識も使いながら生徒が学び取っていく授業とした。

① パフォーマンス課題の設定

前述したように、生徒が主体的に学習に取り組むためには、音や音楽との出会い方を工夫することが大切であると考える。日本の伝統芸能と聞くと、取り組む前から苦手意識を持つ生徒が

多い。そのため、まず歌舞伎の学習に入る前に外国の友達からのメッセージとして、英文を視聴させ、生徒が主体的に取り組めるようなパフォーマンス課題を提示した。

Hi, How are you? I'm very excited about the trip to Japan next week.
I'm looking forward to seeing 'kabuki'. I really like 'Ichikawa Ebizo'. He is very handsome.
And I know about 'ONNAGATA' in kabuki. It is so beautiful.
It is my first time to see a Japanese traditional performance, like 'kabuki'.
So, I'm very happy to see it. I'm very happy to see you, and go to 'kabuki' together, too.
Thank you for your kindness. See you next week. Bye!

この英文を聞いた後に、パフォーマンス課題を提示する。

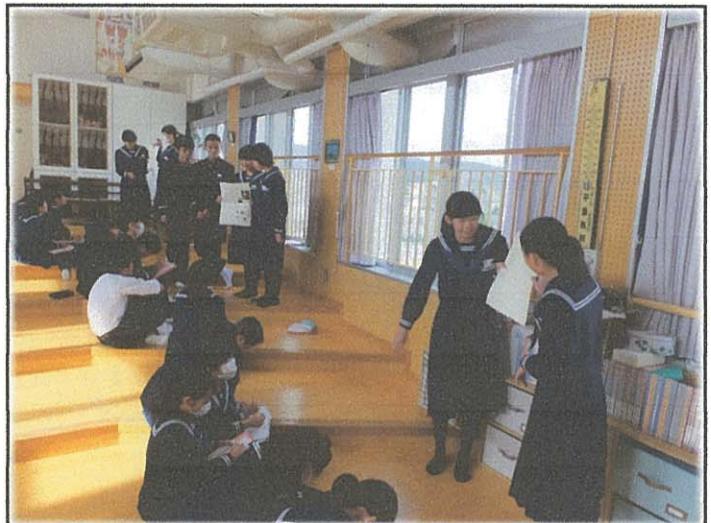
初めて日本の古典芸能を見る友達にとって、どの狂言（演目）を紹介するのが良いでしょう。あなたならどの歌舞伎小屋のどの狂言（演目）と一緒に観に行きますか？

このパフォーマンス課題を出し、子どもたちにどのようなことを知りたいかを問い合わせ、生徒が歌舞伎についての学習に主体的に取り組むようにした。また、この学習の前にオペラを学習しているため、舞台の作り（日本の歌舞伎小屋にある廻り舞台や花道など）、音楽の多様性などに興味を持って学習に取り組んでいた。また歌舞伎と一言で言っても、種類は様々である。人々の暮らしや時代の流れとともに歌舞伎も変わらないもの（時代物、世話物）、新しくうまれるもの（新歌舞伎、スーパー歌舞伎など）がある。友人とみる演目や歌舞伎小屋、役者などもできるだけリアリティがあるように、この2～3年で行われた狂言（演目）を選択肢とした。

演目を選択する際、生徒は未来思考科で学習したPMI法（思考ツール）などを使いながら、それぞれの良さなどを比較し、一つの演目に絞っていった。

調べ学習やまとめを経て、発表はポスターセッションの形とした
【資料4】。クラスを半分に分け、自分の興味があるグループの発表を聞きに行く。発表者は、聞きに来た生徒からの質問に答えられるように準備をした。

教師が学習課題のレベルを意識して課題を設定することにより、これまで歌舞伎について教師が「教える」という授業から、生徒自身が「自ら学ぶ」授業への転換をすることができ、生徒の興味・関心も



【資料4】ポスターセッションの様子

② 振り返りの3つの視点

題材の最後に本校で取り組んでいる3つの振り返りの視点で振り返りを行った。また、生徒には歌舞伎の魅力について自分なりにまとめさせた。歌舞伎の良さや美しさを感じ、我が国の伝統芸能を残していくこうという気持ちをもつ生徒が多かった。【資料5】は生徒の振り返りのワークシートである。

新しく知ったこと、できるようになつたこと	これまでの経験やこれまで学習した授業、他教科とのつながり	生活やこれからの授業でどのように生かせるか、新たな疑問や課題
歌謡伎は、紙「合表術」で「ヨリースヤビ」のアニメも、歌謡伎に行くていろいろと矢張り、などとえらぶこともありました。また、時代の流行をとり入れていて、そこに懸念を感じました。	歌謡伎は社会の歴史とともに、常に変遷が進んでいたので、それが現代にまで残っているなどとえらぶこともありました。また、今は、流行によって歌謡伎は変化してきて、その上で、これからどうなっていくかを想像していました。	

【資料5】3つの視点での振り返り

4 成果と課題

(1) 成果

実践で報告した歌舞伎の授業後には、生徒が制作した紹介のポスターと合わせて、今後行われる歌舞伎を掲示した【資料6】。授業前には伝統芸能や伝統音楽は難しい、わからない、おもしろくないと感じていた生徒もいたが、歌舞伎との出会いを工夫することで、生徒にとって興味を持つことができるものとなった。長期休暇には、初めて歌舞伎を観に行った生徒もいた。

中学生にとって伝統芸能は、自分の生活に遠い存在だった。しかし、江戸時代から脈々と受け継がれている歌舞伎をはじめ、日本の伝統芸能の良さに触れ、継承していくとする態度を育てるのによい題材となった。自分の日本の伝統芸能に持ったイメージや感情を、その要因となる音楽の仕組みを理解して鑑賞することにより、その楽しみや感動はさらに増す。

このように学習課題のレベルを意識すれば、授業者自身も他教科との関連や実社会との関連を考えながら授業を行うことができる。そのことが音楽科の学習が、音楽の役立ち感へつながっていくと考える。



【資料6】歌舞伎の掲示

(2) 課題

3つの視点での振り返りを自己評価として行うことで、生徒は自分がどのようなことができるようになり、どのような内容や教科とつながっているのかを可視化することができる。しかし、35時間の時間の中で、毎時間の振り返りは難しいと感じた。現在は題材末の振り返りとしているが、この振り返りについてはさらに改善していかなければならない。

最初に「全国学力調査（音楽）」の「音楽の学習は、普段の生活に役立つと思いますか。」「音楽の学習は、将来の生活や社会に出て役立つと思いますか。」の質問の答えが半数前後の生徒がそう思っていないことを述べた。より、心豊かに生活するために音楽の果たす役割は大きいと考えており、生徒にわかりやすいよう「生活の中にある（生活に密着した）音楽」などを取り上げて授業改善を行ったが、まだ音楽の生活への役立ち感は感じられていない生徒もいる。今後更なる研究を進めたい。

【参考文献】

- 臼井学 (2017)『中等教育資料』平成29年7月号, 58-59頁
- 臼井学 (2018)『中等教育資料』平成30年1月号, 58-59頁
- 熊本大学教育学部附属中学校 (2014)『平成26年度研究紀要「思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり」』
- 熊本大学教育学部附属中学校 (2015)『平成27年度研究紀要「未来を拓く力」を育成する教育課程の開発（2年次）』
- 国立教育施策研究所 (2010)『特定の課題に関する調査（音楽）』
- 副島和久 (2017)『中学校新学習指導要領の展開 音楽編』(明治図書)
- 宮下俊也 (2018)『平成29年改定 中学校教育課程実践講座 音楽』(ぎょうせい)
- 文部科学省 (2017)『中学校学習指導要領解説 音楽編』
- 文部科学省 (2017)『中学校学習指導要領解説 総則編』